

道の駅「どんぐりの里いなぶ」・どんぐりの里整備計画 事後評価委員会開催概要

1. 日時

日時：令和3年3月15日(月) 午後2時から午後4時

場所：豊田市稲武支所

▼評価委員

所属	氏名
金城学院大学国際情報学部 准教授	畠山 正人
株式会社どんぐりの里いなぶ 代表取締役(駅長)	青木 正道
稲武地区区長会 会長	安藤 貴紳

▼事務局

豊田市稲武支所

▼資料

次第、規約、事後評価調書(案)



会議の様子

2. 会議趣旨

- (1) 規約説明 ⇒ 異議なし(委員)
- (2) 委員長選出 畠山委員 ⇒ 異議なし(委員)

3. 委員会の結論

- 事後評価調書(案)が概ね了承された。
- 道路拡幅事業により安全で快適な歩行空間を確保でき、道の駅に留まらない周遊促進が期待される。交通結節点整備により、イベント時の活用によるぎわいの創出が図られ、大型バス乗入対応による道の駅利用者の増加が期待される。また、公共交通で利用できる地域拠点となったことから、高齢者等の日常的な移動手段の確保が可能になったとともに、買い物等、地元利用の増加が見込まれる。

4. 議事の主な意見概要

(1) 定量的指標の達成状況

- 天候の影響は大きく、地元の夏祭りが2年以上なかったことを承知している。指標①「どんぐり横丁」の年間利用者数の目標値と実績値に差が出た要因として問題ないとする。(委員長)
- 指標②豊田市稲武地域バス(どんぐりバス)の年間利用者数の目標値と実績値に差が出た要因は、移動が難しい高齢者が増えてきたことや、人口が減ってきていることもあると言える。(委員長)
- 交通結節点の利用者数を増やしていかないといけない課題はあるが、デマンドバス、おいでんバス、地域バス等のバランスを考えなければならない。ダイヤの利便性について、改善が必要である。(委員)

(2) 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況

- 売上単価が上昇しているが、消費税が上がったこともあり、それを踏まえて単価を上げていることもあるので、入込客数を上げていくことが重要だと感じている。(委員)

(3) 基幹事業とその他関連事業との関連性

- 歩道が整備されて、安全性・周遊性が向上したという効果を記載しても良い。(委員長)

(4) 整備計画以外の新たな取組

- 自動運転の取組は、道の駅にとってはありがたく、出荷が困難な生産者に対しては良い取組であると考えている。(委員)

(5) 今後の方針

- 約60%は外部で買い物をしている状況であり、交通結節点の利用により、地元で買い物ができるようになれば、経済効果を生んでいくと考えている。(委員長)
- 地元の方が買い物できるよう、バスの利便性の向上や、たすけあいプロジェクトとして高齢者等の日常的な移動手段の確保を引き続き取り組んでいく。(委員)